

武江年表

自天明七年
至天明八年

六

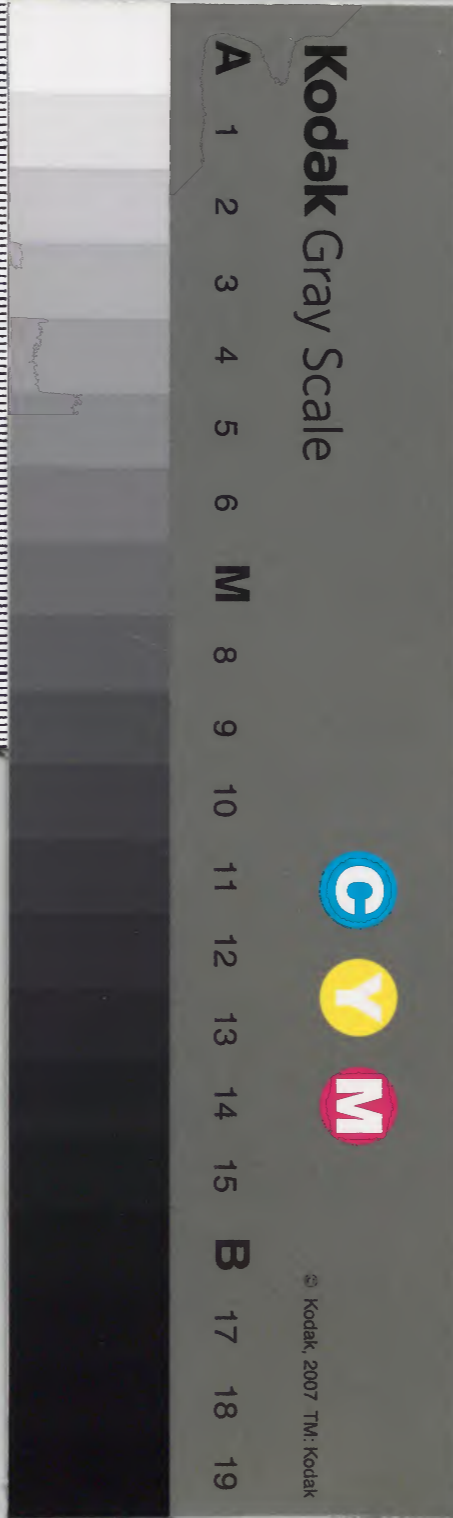
祖

庫	文	閣	内
西		三	和
一		二	
函		七	書
		五	
五	八	九	類
架	冊	號	

210
閣

内閣文庫	
番號	和 32759
冊數	8 (6)
函號	141 86

共



巻210

武江年表卷之六

明和七年度寅 六月閏

三月十日より湯島天満宮開帳 ○ 十日より新巻所八幡宮より東北野社

司本藤原宗子像奉祀親世者開帳 ○ 浅草祇念寺より三及明顯寺柳

新堂聖徳太子三尊佛未開帳 ○ 四月朔日より麻布善福寺より越後

寺田井波園瑞泉寺親書上人宝物未許せしむ ○ 同日より深川吉信寺

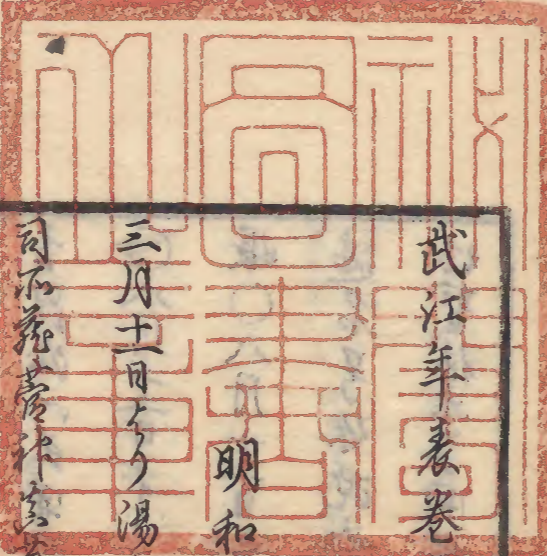
より奥明令法大用密寺親述如來子帳 ○ 茅場町茶師如來開帳

○ 深川淨心寺より身延山奥院祖師鬼子母神開帳 ○ 四月十二日より

深川大佛勧進所より二月堂親世者安宝物開帳 ○ 永代寺より孫倉

所より并熾磨王本地地蔵宗帳 ○ 五月より八月迄徳圃大早

おひでり 道立橋小虫つれ 深川虫巻宗帳



武江年表卷之六

俗小虫をカチと云々... 六月月上旬星月を考めく

○麻布永坂光照寺... 六月十九日八月中旬

○六月十九日八月中旬... 向日より一目八幡宮

○今年... 向日より一目八幡宮

○向日より一目八幡宮... 向日より一目八幡宮

○向日より一目八幡宮... 向日より一目八幡宮

○向日より一目八幡宮... 向日より一目八幡宮

○向日より一目八幡宮... 向日より一目八幡宮

○向日より一目八幡宮... 向日より一目八幡宮

○向日より一目八幡宮... 向日より一目八幡宮

○向日より一目八幡宮... 向日より一目八幡宮

○向日より一目八幡宮... 向日より一目八幡宮

明和八年辛卯

成り雷電為右... 十一月廿六日書家小笠原一甫卒

○正月廿八日書家上田素鏡卒

○二月... 村松町より出火

○二月十日より上野

○三月... 武島比企郡

○三月八日より

○三月廿二日

○三月廿二日

○三月廿二日

○三月廿二日

より不忌池弁才天開帳○二月廿九日富士田根江死若次と云を母の上子あり○四月朔日より浅草本法寺にて房明本条小松系鏡恩寺祖師開帳

同日より不忌弁才天内にて鏡念極末寺釈迦如来開帳○本所六之橋

自性院にて信乃川東南照寺弥勒如来開帳○四月朔日より浅草寺内より

上総望地那久保村大目寺大目如来野持観開帳○戸崎町毒量

院にて奥乃葉折毒能寺弥勒如来毒能上人像開帳○浅草寺町深空寺

文珠并開帳○四月江戸雲降る○四月八日物産家後友梨美卒七十五才、藤太仲、梧陰庵

と早良若連の古多し。芝青ねる小舞尺。又義方おのゝり○四月廿三日曉寅刻吉系揚屋町

出火廓中焼亡以時より并助徳寺の社務の今戸橋場辺○五月二日地震○五月十七日

先物飛ぶ○五月より三股新地築立始る安永元年の件又記せり○六月二日大地震

○女浪通用止○東埔塞丸の小さ成唐茄子と号してをわり出火

○薬研堀とりのハ米沢町二丁目三丁目の地先小車一入堀あり今年

六月より十月迄は埋立宜し町極と双葉研堀埋立地と号し○七月朔日より

浅草境内にて鏡念永谷貞昌院又清宮開帳○七月朔日より回向院にて

大和岩麻誕生寺弥勒如来開帳廿五菩薩来迎會修りあり○八月大風人

家多く倒れ出火り出火切まて永代橋一高り大橋ありと号し又一艘佃島と

石川島の石一吹上人跡を以て出火○九月神田町神奈礼延引安永八年より

出火○秋永代寺小藤山泉水をとりて石を以て近辺度々出火

あり中河岸小橋並る板の葉より出火して本所小梅追焼け美巖寺

本堂も焼く是等社山の形を写し女人を請りめり崇あり一唱せり以鏡

あり近辺の町並のりの初るふありと号し○神田依柄本町酒店山川十右衛門

親世言像二十三軀と造りし浅草下谷の寺院二十三所安置して眼札の

所と

此年間記事

△儒家 宇佐美惠助備水 如崎才茂海 井上文平金 井上源茂東 井上仲

岡井郡太史明 △詩文 龍弥八雀 細井甚三郎平 宮瀬三石明 須知文平

葛城山人 千葉茂右衛門共 三浦右吉衛瓶 大内忠右史熊 △書家 三井孫左衛門

和 澤田文二郎石 松下君嶽鳥 屋代左次衛門師 伊原善茂益道 隈陵山人

小河保壽 細井九皋 △和哥 加茂吉剛 最系守万伎 荷田西風 蒼生女

稻生魚彦 △物産 田村元雄 平賀旭溪 後藤梨夷 △画家 狩野荣川院

鈴木鄰松 吉田榮香 佐野嵩之 二浦花信 諸葛監文勢政といふ名をとり子門人劉安生也

△俳諧 蓼太存義 買明治山田社宝馬露十 △浮世繪師 藤川春章門我多

一筆 舟文潤 磯田湖祐 柳文朝 小松益百 龜本行

○三井親和が篆書形れより親和際と篆字のおそれる形を傳物とて
 事形より又婦女の衣類表の垂化ふくまふ様子を傳へたる事あり ○細身の
 程差をみる 武家より細身刀を用いし由 土平といふ能賣をみる 谷中益藤編花
 境内の茶屋建屋のおせん漬菜園山嶺書木の下揚枝店柳屋のおせん
 美女の姿をみる 喜信の神画よ 曲亭云 明和二年の以庵山の彩色摺ふあり
 て板本師金六といふりの板摺某ふくまふ板本へ見當を付る事を工更始と
 四六遍の彩色摺を製し出せし程あり和よりて摺物事とありぬと云
 蜀山翁云此説非之是尚や付る彩色摺の延享元年 明和二年の以庵人形を吉田
 江名屋吉右衛門工更と始とすといふ 富士田根の萩江露友
 文二郎 同文吾松りりり以彼ら風をよめりて羽折の火再を好るるが
 福あり程く成りり ○琴曲 生田檢校の事 ○富士田根の萩江露友
 木が長唄新内市降瑞瑞の事 ○二挺鼓をみる ○朝鮮の弘慶子といふ某

武江年表卷之二

利小風ふり或東風は成常盤橋外の火大傳る町辺馬喰町二丁目迄
 濱町辺隈町葺屋町為産の芝居探芝居四座小畑町大坂町田所新波町
 住吉町辺伊勢町駿河町宝町迄日本橋中橋京橋ふりる未刻双方の火
 殆り地時大雨降風殆りは火より六七里幅一里大小名藩邸寺院神社町屋
 の類夥しく焼死怪家人其数を知らず
上野仁王ついで再度の焼亡之感あるべきは
 由りては焼く麻布一巾松申け七娘と裁勢なり

○吉原町板宅今戸揚場山の宿為小幡川八幡赤佃丁一歩の芳町の街籠郎由仲丁の板宅(出る
 ○大火後仍大坂大田を再建せしものゆゑある人六百羅漢の石像を造立せし雲中菴夢太
 横山町は住居より一歩火より逃れし住居は中橋要津中の菴より一歩「排橋を造立せし
 青丸柳のふ」といふをききしとあるありし一歩をせしめて百韻をみても夜を明せしとぞ

○三月又日より不恩条を内して系如堂慈光稲荷明神園帳

○四月十日より牛の河前王子権現園帳○四月十九日善方天火西より東北へ

飛ぶ○四月八日より小日向火日板妙皇院大日妙皇園帳○魚籃觀世

寺園帳○四月より五月迄諸寺疫癘流行○四月日谷内為新宿総舎

再興漸免あり甲加道中人馬修立の示とありて警備せり○大川中洲妙境

藤立成就以町屋の安永四年小至り今く成まり

川岸九三下余評教九千六百七十坪余葺屋九十二軒あり中内四季店と云いハ小東の隅の
 料理屋を殊々大度之とて湯屋ハ三軒あり中内家の敷初より安永四年より天明八年
 迄十四年の間に中洲の之を築ひあるが故に後述の如くありし寛政己未元のこと
 朱樂菱江が綿の大極清覽と云ふ書紙に中洲のありしを記せり

○七月六日画人佐脇嵩之卒
六十五名名賢林甚茂後某書教中林名院に葬
 初代英一察晩年の門人ありて始二水と云り嵩谷これ門之

○八月朔日二日大風而家屋を吹潰る高妻野焼の小屋吹倒るり

残民の困苦甚し○八月廿日儒師村士淡舟卒
名宗雄林林在妻の
 幼弟大田より小葉と云

工大森英昌卒
八才

○八月十七日大風而再度小登を覆す本深川出水床
上連なる大船永代橋を損是

○八月廿七日土佐左系少遠光芳卒
七年

○九月式朱張通用始る○十一月朔日教九町以上野所本坊失火

○以冬初唐といふ人日暮里舟撃松の碑を建小海入江貞文を撰む

○再按塔補江戶砂子梓乃 沾涼ダ男恒足軒門人 冬涉按訂以

安永二年癸巳 二月閏

二月十五日儒師深見有隣卒 林新善信又久末玄玄傳の二男 上野護国院に葬以 ○三月廿一日平島

長命寺弁大天閑帳 ○二月より回向院境内一言親者閑帳 ○同寺極慶申堂

青面金剛閑帳 ○三月十日上野凌雲院失火 ○四月より洲雲弁大天閑帳

○同月より先福庵の神閑帳 ○四月午の日藤地小田永町浪除稻荷祭

町々出練拍亦必以生怪体む ○三月末より夜病仍是人多死 江中

三月より五月まで九十九万人 所救 とて朝鮮人參せり ○四月よりお忍の病

上の宮弁大天閑帳江戶より系譜多し ○五月醫學館再建諸醫師より年々

寄附帳乃 ○五月十九日儒師坪井青城卒 名敏求 浅草正覺寺に葬以 ○葛西東漸

寺日限親世者閑帳 お忍の半途に ○七月朔日より湯島社地にて攝州

四天王寺聖德太子閑帳 六月廿六日の夜念の時 連の積多し ○冬嚴寒川々の氷厚く通船自由

あつる中にて諸物の價甚貴うりこれより正月門飾の松竹高ふり

名ふしあふふ川も氷因て通船絶一日も有し由後見まふり

○十二月朔日神田神社仮殿にて祭礼の式執り 當年祭礼の年々有し去年は災

産子の町々わたり物もるふ所をみる所今日仮殿にて生武の儀あり 雁ノ本社に遠營し

生後安永六年遠仮殿にて執り以八月亥年九月奉寄あり ○安永の始の以綿の史を

る蕎麦を食して死すといふ 墓所一覽小画人宋紫石今に於て宋本形の中種本を

鳴一般ありてその更賣れに ○由記せし物に小最島扁額縮本を安永七年戊戌五月

宋紫石六十三才を孔雀を画する額を載りしより種本を安永七年戊戌五月

慥より又同中宗恩も其家の墓碑あれども由詳あり

同 三年甲午

正月廿日狩野洞倉倉信卒 ○二月八日より川口善光寺に延陀如來聖像

○三月廿日下栲町より出火大風あて救所難焼すと云 ○三月十日中納帳

千年忌 ○三月十八日建部涼袋卒 五十六才牛島弘福寺に葬を 画并俳諧を著し以興葉齋と号し

○同日より魚藍親世音開帳 ○四月朔日より六月廿一日迄大師河原年間
 寺弘法大師中濃稻荷田向院にて開帳 ○四月四日より六月八日迄本所
 表町本久寺祖師開帳 ○四月八日より五月十八日迄本下川茶師如來開帳
 ○永代寺内丈六親世音腰籠佛開帳 ○四月十八日より六月八日迄淺草寺
 親世音開帳 ○西門外河對面所にて信助埴科郡白鳥山康樂寺園光大師
 漸新親世音上人本像開帳 ○二本枝廣岳院にて仙臺住生寺寶牛像
 度山光大師開帳 ○六所鉢院末本親世音開帳 西が原 昌林寺 ○月三番西が原
 每量寺親世音開帳 ○四月十八日より六月八日迄淺草寺内日音院
 雨宝童子松壽院おとく弁才天獲籠像開帳 ○淺草池の妙寺弁
 才天開帳 ○五月十六日より龍戸天満宮開帳 ○六月六日大雷廿七ヶ所小
 落る ○六月廿二日大風雨家屋を損し樹木を倒し

○小石川傳通院山内福聚院大黒天玄の以より江戸中一構中を結んで
 甲子の系譜今年より始る ○七月朔日より護國寺本寺如意輪親世音
 開帳 ○同日より小石川大塚大慈寺親世音開帳 ○七月十音古筆了延卒
七十 ○八月十音市谷八幡宮系礼神樂を演じ練物未出る ○八月津より
一才 猪先祖齋賀新内死 卒 ○九月朔日より市谷八幡宮内茶の末稻荷開
 帳 ○九月医学教講堂成就止 ○九月廿日土山聖天宮系礼神樂を演
 じ産子の町より出練物を出し以後休む ○九月廿日小石川白山権現
 系礼神樂を演じ産子町より出練物を出し ○九月深川鑄錢座止
 ○大川橋始り掛る 俗に吾妻 橋といふ 十月十七日渡り始り ○十月廿二日儒師鶴益一卒 左膳
伊豆子長徳 ○画人鳥山石蕨豊房 山彦といふ 繪本二巻を成りしに及ぶキボカ
 シの彩色摺をエ文せしむ本を始とすは安房貞翁の語 石蕨の周信の門人 あり板刻の画本也

○又此時代橋の珉江といふ繪師ありて摺込の粉色を工
又職人部類といふ繪師ありて其外俳諧の点式あど製して行き
いづやて廢れり○投扇の戲行は是を裁す

安永四年乙未

十月間

三月十七日より日向院より京清水山養院景清守本尊千手觀世音毘沙門天
勝軍地藏菩薩開帳○同廿九日分洪谷長谷寺より京羽山清水寺
觀院千手觀世音毘沙門天地藏菩薩開帳○大井來福寺櫻樹を栽修く

○四月朔日より林田上水源大盛寺井頭糸才天開帳○津久戸明林
八幡宮開帳○四月芝切通一時の禿再真○龜戸聖廟小樓門

建屋上小○大川中洲築立地一家居連續町名を三股富永町と号
川辺小葺篋圓の茶店をけり是は五月納涼珠と號し結奇畫

夜不喧

六如菴詩鈔 中津泛舟

繁華休說湧金門行樂此中難具論烟暖四時花世界月清萬頃
水乾坤垂楊岸岸樓臺出遊舫人人歌笑喧輸却枕列綠底事恨
無蘓白關詞源

中津納涼同伊藤士善

日落江天開暑以趁涼輕舸向中洲燈棚夾岸花相映蟬竦臥波
橋欲浮鳳管數聲風嫋嫋星河一帶水悠悠銀罌倒盡人難醉白
紵携歸滿袂秋

中津漫興

十里清湖鏡裡天繁華惱客動留連鷺鷥沙外芙蓉雨楊柳橋頭
翡翠烟氤見黃金竿買笑誰知白髮暗催年笙歌眼底鎮長滿自
是來舟非去船

○四月より目黒明王院より鎌倉本寺觀世音同岩殿寺觀世音同
宝戒寺觀世音同鎌倉本寺觀世音同岩殿寺觀世音同
く伊豆三島長岡富士山本地何孫院如來開帳○七月より日向院より
てお召名根塔峯阿孫院寺深誓上人本地法團光明佛開帳

○七月より市谷柳町之住院親立者閑帳○八月十三日より晦日まで
 深川八幡宮閑帳○八月廿二日より護國寺山内より後父三十日番親世音
 不務閑帳○八月茅場町東沙境内より及菟野法界より朝日如来閑帳○九月
 朔日より音羽町九丁目田中八幡宮閑帳○同日より廿日と飯田町世徳稻
 花天満宮閑帳○九月十九日牛込赤城明神閑帳○投壺の技行る東が
研尋し之法と傳ふ投壺指揮投壺久勢圖解ホ梓行せり ○紀伊系屋文九束十山が実子
 文右造藤地飯田町又住し 終る者一なるが能遊を好む龜山と号しのち後藤
 髪一明西といふ今年六十作方一く終る紀文が子孫 ○十二月廿二日儒師
 松崎親海卒名維時孫才孫 ○薩那より来り一整猪アライといふけり数津田村
 屋町田村元権の家より一く後浅草寺境内より見世物といひ然の大サを脊
 小長丸骨救百本一り怒る時ハ妙骨逆立一く怒り一き答せり

安永五年丙申

正月五日儒師村士一卒名宗章号玉水孫行着 ○正月廿八日より柳島法
 性寺妙見宮閑帳○二月風邪流行○三月末より秋の始を一麻疹流行
 人多く死す○三月廿二日物産家田村元権卒名元壺浅草 ○四月廿八日詩
 人大内熊耳卒八十才名承裕孫忠孝又下谷廣植也 ○五月六日より八月八日迄回
 向院より伊勢白子親考子安親世者閑帳○五月朔日より矢口新
 田町本池十一面親世者閑帳○同日より永代者一く六ヶ羽田舟才夫
 閑帳○七月朔日より永代者飛来八幡宮閑帳○七月廿九日七十七道濟卒号金谷
 祖孫の男一 ○八月九日儒師宇佐美瀧水卒名惠字子迪孫助四谷 ○柳橋若井
 登と云一船宿の妻一産一小三女を生一 名を梅松とすといふは梅の縁語ありといふも
 ○品川の辺あり石地藏經を讀む声一ありと云人史一不一り一が地蔵一の

并家牒 ○六月より本に丸山島若寺祖師開帳 ○六月十日儒師痛垣長章卒 号白

林蔵右衛門白山 ○夏より伊豆大島焼始り南海へ火燃出り不川沖を夜く火光天く 号白

映する あざむ ○八月十五日日向院より江及粟津義仲と本号義仲於長守本 あざむ

寺於日向院如來芭蕉翁像開帳 ○八月廿五日書家高山水湏平 名尚賢稱平助

○北秋魚標ありね及小田原の海中へ大魚来る其文以平十石横八九石脊中へ坊 名尚賢稱平助

の類有る名をメウガサノといひりある大船をも覆つてとりて生以漁人 名尚賢稱平助

志れく海へ出るるあり ○十月日本不動尊内より武島多摩郡谷保又 名尚賢稱平助

津開帳 別号 ○十月甲辰身延山七面宮より出火系諸の者怪家人をく 安樂寺

江戸より移るを運あはるる者多く九死一生の祥もて酒府せしむり きりしんや

安永七年戊戌 七月間

二月朔日より濃巻本法よりく佐渡水堀系根本寺祖師開帳 ○二月十二日 つらつらえんた

俄に大風起り本石町より出火靈巖高深川建延焼 ○小幡町子代四

稻為新靈宝殿多由と拜せむ ○浅野家の義士堀部安玄隣が後

家 縁組とのひー計りて燃せざる月 薙髪して妙海と号し一飛舟村の庵室に居 ま切後を十六才の時あり

たりく老後泉岳寺の門前住して義士の善徳を吊ひ居るあり今 ちんこ

年二月廿九才あり終れり ○三月三日儒師南宮太湫卒 名岳

牛島弘福 ○三月廿五日より糺町平川天満宮開帳 ○鳥森稻為明林喜日 林蔵六

明林 別号 開帳 ○三月上野清水堂親世号本堂造立あり開帳 快光院

○三田美日明林開帳 ○お横身初の日故昔へ晴天八日成り今年三月廿八

日より深川八幡宮境内においしく身初ありより十日と成り由我衣よ

見えたり ○四月朔日より牛込田福寺より本満寺祖師開帳 名中下

○四月より護国寺より甲辰大聖院不動尊 勢登三弁像 開帳 武田信玄像

あきくは旅所は幸地親世吉開帳 ○川崎年間寺厄除弘法大師奉
堂修復成就小舟開帳 ○

此土山聖天宮西の禁小舟の池あり池中は石投げ等
と号し又は其の老嫗の立像あり兒童石を投げ入
小投込といひ侍りたり一年火災不罹り池も埋れ石像も土中不埋れ四十年來初る人なし
今年の実下縁玉八日布垣の百姓半山忠志忠男といふ所の江戸不承り以所を借りて酒樓
と号し池を掘改め三条お梅を築りて三橋亭と号し又藤原の女小機を織りて客
ふりおけりといふ所の石像を掘りてを移りて山の上に移りて今在
りて集衣婆の像あり

○四月朔日二日大不寒一日大雹降 ○四月八日
濱草本流ちよの初曾妙顯と祖師釈迦如來開帳 ○月日より回向院
より伊勢朝熊岳金剛院と虚空苑菩薩開帳 ○押上最教寺蒙
古退治の旗曼荼羅を拜せしむ ○下谷徒太右摩利支天開帳

○四月八日より濱草極寺 西尾 結子熊野本地跡地如來 開山親智因師
供撰本寺 開帳
○四月より七月迄百日のちね洲江の橋本宮岩屋并又天開帳 江戸糸巻
○月尾不動寺内之信及水内郡石堂村萱堂寂照房作地持井 別當
西栗寺 開帳

○野宮山内之浅乃山虚空苑并年中辰鬼林堂地持井開帳 別當延命寺

○五月十日より廿九日占山船越子勅進おの南於東寺二月廿親世吉并開帳

○六月八日より茅場町茶師内之武洲下新座村茶師寺吹上親世吉開帳

○湯島石林社地持多摩郡谷古田領新里徳性寺茶師如來不動寺并
帳 ○八月より深川八幡宮幸地愛深明王開帳 ○小石川毎量院小野

の小町の墓とを五和洲より移しり由今今年小町の九百を忌り八月八日
法了修め 小町の修め三月
某の日ありといふ ○八月廿六日大風雨洪水和泉橋落月白下水

道越極の落せる程あり 小日向水丁辺
住来水更程あり ○薩州彦品川の前邸一琉球寺の
筆を居て極る者人々を珍賞す 世不並ふ
筆と稱し ○九月二日俳人梅部菴五連平

七年云々小石川
一多ち雲次氏 ○九月より十二月迄小畑町より甚左衛門町へ落りて
壊ちけまの地を埋るる ○九月十五日新茶多礼林寺を落りて子

町より出た物や少くは後中絶也○去年冬より伴臣大
為焼出夜毎西南吹動して江左連も多流れり○十月朔日夜より
二日連灰塵の如く降る大隅國様為焼うらがそ灰江左連も焼く

○十月廿三日徳人並家九八歳卒 六千と上上の山下 啓運ち小孫 ○葛西柴又村野修

九世日 今年堂宇を修理せし小本堂の棟上より今の帝釈天の板本

致の時 今堂宇を修理せし小本堂の棟上より今の帝釈天の板本

多せ好くこれをまつる 是箇ち小修つく先を失ひし本堂との日修申し小高う

○今年 足日 小詳 書家鳥石葛原系初小於て卒 八千文字若岳号白玉坊 廣津の門人あり

安永九年庚子

○十二月十八日平賀旭溪卒 名因倫林深内号風来山人松崎松泉ち小孫 一とよ安永九子年二月とも云

正月八日書家後山敷兼卒 名秀盈後山流の祖 下谷長福ち小孫 ○二月十五日書家山本昌

信卒 稱菊作 三回 終末ち小孫 ○三月八日基井千七十年生養六阿弥院如來小孫孫

日向○二月朔日より湯島社地より上野世良田感徳山惣持ち十一面

觀世寺開帳○麻布若福寺冠儀聖徳太子開帳觀書上人孝八字若

号せ詳せむ○千騎う谷八幡宮祓功皇后喜日明神開帳○三月朔日

市谷柳町先徳院子之觀世寺開帳○同日より池の妙寺ち祖師開帳

○三月十五日より青山善光寺之攝津冠波堀江一光寺佛開帳 和光寺

○三月十六日永代寺之葛飾郡吉川延命寺地蔵寺開帳○四月朔日より

日向院より自來社より阿弥院如來社天徳正光新開帳○四月朔日淺

多西福寺無量壽仏 徳什物 觀世寺 開帳○四月朔日より極樂水光系ち元木某師

開帳○四月十五日より龜有村祥雲寺聖觀世寺并深川寺町志慈寺ち

開帳○日向不動寺開帳○淺草天五橋西の橋始り撰る○四月十六日より

羅漢寺三市堂建立八月の以成就 秋又坂東 西國の字 百觀世寺安徳供養あり 名俗某師

○四月房州南浦異國船漂着南原船名廿八号七十八人等といふ

○青高田室名おの石を獲て富士山を築今月成徳す○或書よ六月

困運星おると云○五月十日日書家後田定考卒号明浦 丸山本如也○六月二日大雷雨

○六月廿四日儒師松宮親山卒名俊仍稱之鈴木源光隆院也 華以志物是神と云○六月大西降續

廿六日より江戸近在利根川荒川戸田川洪水村々人家を流し永代橋新文

橋落る助船を以て難を救せらる七月より米價貴し○七月朔日より回白

院より丹後天橋立成ねる聖親世より對王丸為代地荒る因帳○九月十

五日儒師林東溟卒名義卿半島 弘福寺小華以○十月十日山園阿若系於小卒名俊明 林方波

○武藏志料字本成明形君の著輯 武今年正月

○武藏志料字本成武今年正月

此年間に紀事

此年間に紀事

堀の内妙法寺祖師進日永清人群集以○安永始の以王子駒込谷中辺西玉

写經寺をたふ巡りせ定む○江戸小二十五番新田光大師巡拜祈せ定む名編 米車

○安永十年俳人提亭以探る種おと云白集不載る所の是時代の七等物高物

目録左小畧記之○菓子屋下谷廣小路合沢本町鈴木越後月形町中や 飯田町とや泉町とや飯田町壺屋○大佛

餅浅草並木 下谷車坂○輕燒松葉煎茶 茗荷餅○蕎麥切多乃正並形正並形吉永約親 浅草乃好庵堺町福山牛島長合と雜司谷菰の内

○船切麹町 浅草並木○揚枝茶釜五倍子酒中花 浅草堀内 柳屋中村○料理茶屋浅草堀内 柳屋中村

○生養鯉浅草堀内 西太舟 須崎太倉孫比布○麩の焼浅草堀内 柳屋中村○隅田川諸白浅草堀内 柳屋中村

○所新おに浅草堀内 柳屋中村○蕎麥切豆腐浅草堀内 柳屋中村○おの雪う茶浅草堀内 柳屋中村

○黄飯浅草堀内 柳屋中村○いくよ餅浅草堀内 柳屋中村

東く花香の名不狗の名所をも記せり○お撲取谷風棍之助小野川喜

東く花香の名不狗の名所をも記せり○お撲取谷風棍之助小野川喜

東く花香の名不狗の名所をも記せり○お撲取谷風棍之助小野川喜

三邦親近嶽雲古岳の石のり 安永の以てくし海川永代も ○狂哥師 平秩東也

蜀山人手柄岡持唐衣揚洲 ○軍談師馬谷落 祐石井魯石のり

○浮世繪師名居清長 新を物珍木更信の以より以骨小巧お成 古虎堂更遊

意川美町 舎橋 将川豊春 一庵 ○能人如露菴を醉四時遊觀録

といふ面柄をあらはに江戸花燈を小始り ○浅草寺境内石地蔵を

因果地蔵 流石に後奥山三途川燒像初祝の若多し ○其先稲荷境内茶

店の婆々油揚を揚ぐおいしくと吸ふ時瓶出て食ふ時人見と見す ○婦女の

髪さし始り ○箱入温石始り ○裸人形腰折れといふりの造り始り

再按る
小石川
文政四
年十月
終れり
蒸照院
小藤氏

○小石川傳通院大恩を有りし門前の表町前小辰已を惣云傍といふりの田楽某殿の
店とせしつゝその惣を養生質強記をふせ弱きを助成頗る快幸のりのありし若年よ
里作中より其惣として乃化神と名し山王社田のり等の奉祀も出で踊る或は女のわらわら
あり小系女とあり巫女の惣をありてとぞう或は播磨藩中の惣ちのゑお強てられりまこと合宿い
かりれとゆうは文化の半の以社田のり時十年位才ありしと云ふるに踊りしと云ふれ由者
なり其七十余ありし終り 南畝先生文化元甲子秋某塔へ趣られ時高船の清人程赤城よわ

つむがわの石已登の海と丸を二つ不割り妙く面白始りしと云ふれと云ふるに石已登が
函儀小南畝先生の琴あり おまわりと社樂の半は石已登られ本娘や花ささせ前

○安永中鳥山檢校遊里小遊遊女深川を身交し巨万の金銀を費せり

此檢校法人小金銀を借りてる利を金有り ○山王神田祭礼の時花万夜せらるる少り

ける由是つひ小衆料小ませられと云ふり ○安永中越後の産まそ女世といふる

る成止りれり地車を係りて曳方度と号し ○大女の力持りてつせ物ありたり

天明元年辛丑 四月十二日改元 五月圓

正月八日新杖本町和國餅の店より出火為芝居その外於燒靈巖橋小

いり ○二月朔日より浅草妙音寺より鎌倉名越谷長勝寺祖師再住

○二月朔日浅草瑞瑞格元祖常磐津文字太史死 庚戌 ○二月十五日

より回向院より中巻小金 善化宗 一月寺親近如來不動尊の因縁 天八箇三美

ある林 ○三月十日十三日と多田中より肉まて 信州善光寺回向如來淨宗文内

少き日十日十八日と沼田延命ちまて 拜 ○三月十八日浅草三社権現祭礼久々終りし今年社樂宗親産子の

町々分世縁物を少之中絶 ○四月八日より回向院より山嶽嵯峨二寺院跡絶叙迹

系先大師関帳 ○淡草寺法寺より下総國平賀寺祖師関帳 ○茅場町

茶師内より和久大峯寺の河原才大関帳 ○古川茶師如來招士縁院 関帳

○敷が橋宗縁寺より甲斐國郡内小野見村西方寺十一面觀世寺関帳

○目白不動寺境内より武蔵惣社住吉和宗三社関帳鎌倉大宮司

○六月五日淡草寺より六天系礼社遷寺縁物少之 ○六月十四日儒師井上榮

條名速林野寺 ○六月十八日四谷天主橋荷系礼社遷寺後一寺縁物

少之 ○秋雲系洪水江戶橋換次 ○七月初日より回向院より豊洲外濱百津

寺岩中山三社本塔縁院如來觀世寺并茶師如來関帳 ○同日より淡草寺

泉寺より武蔵八王子本寺より祖師宗帳 ○四谷寺南寺町寺成院塩踏觀

世寺関帳 ○東叡山護國院常念佛堂五方日回向 ○下谷徳寺より中

山法花經寺祖師関帳 ○七月初日方湯島社地より小野社境内安堂天

満宮関帳 ○八月より淡草寺荒沃不動寺関帳 ○九月晦日子刻吉原伏

見所一本の寺下 二丁目と云より出火一町の除焼る此交へ船宅あり ○十月十三日日蓮

上人五百年忌法花宗寺院法筵を設く ○十月十四日目黒長泉院関

基徳門律師寂諱普寂号乃光 ○十月廿日より十一月廿日迄淡草寺觀世音

関帳 ○隅田川兩岸一覽二巻板行成軸物を刊行するより少く霍岡菴氷の筆

下谷金板小位一長巻を保ちて ○ちんぽん淡草寺縁院のち中道巻巻よて著書製巻が形下に

文政の末より尚存在と云り 實一七日集一書あり貨食舖の如しと云る信られり

天明二年壬寅

三月十日より永代寺より新八幡宮本地地蔵深明五教新以教觀世音

関帳以時境内一寺一巫女のおすところ ○三月七日三井親和亭八十三才号竜湖縁縁席

深川寺丁僧林寺等 ○三月十日より淡草寺念佛堂より足塚谷汲華嚴寺十一面觀世寺

関帳巫女のまをありて少き者にも多し ○三月七日三井親和亭書茶餘粥の達人ありと云

武江年表卷之六

開帳 ○同日より回向院にて奥州金花山系天開帳 ○芝倉坂正徳寺之中山

智泉院鬼子母神開帳 ○茅場町茶師内にて小津清高の神開帳 ○三月廿二日

金彫工尾崎直政卒 祐孫丸也 ○三月廿九日儒師片山兼山卒 名世藩林冬彦 五十三天三田抄稿

小華 ○四月三日儒師後藤芝山卒 六十才孫孫孫孫 名世物 ○五月四日細井九臯卒 名知文 孫三平

一尾沢維乃人漢作の男之 名カ村海那子小華氏 ○六月三日戲作若伊庭可美卒 比谷理世也 華氏孫孫也 ○六月天文

登家半邊茶屋より浅草へ移る 牛込のあり神田佐久野 町の小まわりあり ○七月朔日より回向院

にて武州比企郡三保谷村養牛院子孫親世寺 弘法大師也 乃權寺本号 開帳

○七月十四日夜九時十音如大地震然人戸外へ出るとの男少一の地震ハ算(か)に

け落お及大山の辺との外より屋上より石ぞ落し 又小田東の辺にてまじとそ ○七月十五日より下谷正法院内より

上及秋林光明寺 延喜四年利根川より 出流若光寺月餅也 所縁院如來開帳 ○十月廿日俳人三坊存

義卒 号有世為後学 故公孫子小華氏 ○十一月廿九日俳人谷口樓川卒 卒於中 小華氏 ○今年小獲ふ

山切切少死西五世三所写親寺堂建立 江戸中動化を慕りて是を嘗む文政はより以後小 破壊小及び今に於て之を惜むべし

天明三年癸卯

正月廿六日浪花の狂方師芙蓉花江戸小卒 卒の登法三信と云 浅草西福寺小華氏 ○二月二日俳人

二世沾涼卒 八十五才坊上中 昌泉院小華氏 ○二月二日大地震 ○二月より吾妻森吾妻権

現開帳 ○二月廿日より龜戸若門院正親世寺開帳

○二月廿八日俳人臯月平砂卒 三田為林也 小華氏 ○二月十四日より下谷正法

院稻荷并本北十二面親世寺開帳 ○月十五日より浅草松雲院より齒吹孫院

如來開帳 ○三月十音より回向院にて鎌倉永谷貞昌院天海宮法住

坊本地觀世音開帳 ○青山善光寺弥陀如來開帳 ○浅草穀恩寺親

考上人遺物を物せむ ○三月十八日より六月八日迄浅草寺觀世音開

帳 寛延四年より三十二年目之北中灵佛也抄開帳 ○同日より約形堂より下徳寺

本堂仁王門被換修葺あり

東三井子地蔵井開帳 ○三月より浅草本法寺あり後河岩本実わる
祖師開帳 ○三月廿三日南品川大火 ○月廿五日靈巖島火事 ○四月
八日深川辺大火 ○月十日浅草寺の火出火 ○四月朔日より湯島口法
寺十二面觀世音寺火事開帳 ○月日より浅草寺町折橋本地十二面觀
世音開帳 ○同日より浅草日輪寺あり奥明舎降西光寺日辰地蔵寺
開帳 ○月日より下谷五條天神天満宮開帳 ○四月八日分芝愛宕控現
境内子々中徳必米倉山等妙寺十二面觀世音開帳 ○六月十日より
湯島社内あり小日向若花谷明照寺地蔵寺聖徳太子不動寺開
帳 ○五月より霖雨晴むの稀 ○六月十六日より大雨降續十七日別て
大雨より浅草小石川辺出水大川橋折橋墮る小日向大洗堰石垣崩
是林田上水切る ○信長浅草山火坑火焼江戸あり七月六日夕七ツ

半時より福水の方鳴動一翌七日程迄一天闇く夜の如く六日の
夜より冥赤筋先灰を降るに子駱一竹木枝積雪の如く八日あり
至快晴と成る

浅草山焼出せし喜の以より路り常小荒一とつが別て強く焼出さる六月廿九日の以りて
望月宿の辺よりなる小畑五雲の如く雲一面小荒ひ炎の縮光の極むをえて思一りりー
七月四日以より毎日雷の如く山鳴り次々小強く六月夕方より青色の灰降敷中より翌七
日の朝大霧降る者強く昼迄あり哉同廿夜より四十分位迄の軽石の如き小石降りお出
るより七時より更降出一時時開敷の如く人報も見え分らぬ内一とて火を燈一さるが
用事あれし米俵をいくつもさしてお出さる往來せり極る二時計りて空晴ると日迄は
又降るのこ小雲之火の玉花より暫らく降りて小石降り鳴る強く子孫子孫は夜高るるお
とそに雷強く降り安中へ三に和一落る空へ向ひて流燈を打ち雷除とあり八日
朝に時雲散の如くまより少し晴れ来も見え一若星辺あり八寸位積るる寄辺一三にみす
若星辺月形吉井辺あり一坪の分量あり一石あり降るをれ不値ひ大石降砂も多し松井田小
て三人計り極井次登城進分極星の辺に二つ計りの石障り人家を潰一する友ふ人必りく小
家と捨て遠き遠くの如く令と余せりも有り小田井大番の辺に猪熊と出て入るやと有り
猪師強燈を之照遠く七日夕我妻辺の山より大蛇も出たり又九日己の時利根川の土吾妻川一
たりり子水少しあがり暫時泥お山の如く押さる人家は形なり中洲八丁河岸の辺り一樹木家
屋入るの死骸流しある者夥しく中外の川に焼石お出火熱湯の如く上州一國の民も二三日登
夜途方より信長より上野懸谷辺遠を遠われともは五年の男他物ありはけの難ありて

如嘉滿寺聖德太子開帳○二月小川町三條稻荷新開帳○三月十五日
 より九月五日迄日向院より相州關本最念寺道了權現開帳○葛西花之
 村正等寺誓大明神開帳○三月廿日弘法大師九百五十年忌○川崎平号
 弘法大師開帳○護念寺護持院弘法大師遠忌付什物開帳
 ○永代より山城宇治平号院縣社本祀如嘉滿寺開帳○牛込系福寺
 あり中山法花壇寺本堂祖師日法上人開帳○淺草本堂より依後難太
 郡小濱村妙宣寺祖師開帳○龜戸天満宮開帳○四月より子訪谷鬼子
 母神開帳仙壽院四月より深川靈雲院より系泉涌寺新迎如來肉身
 佛舍利開帳○四月十六日茶人清水玄昌卒下谷泉寺○四月十六日丑下刺
 若系水道尻より出火廓中焼亡飯宅向ふ山向院寺燒焚○四月廿日高
 芙蓉卒宇二系墓刻の上より○祐國院僧房後仍れ人多死也
戸崎町寺堂燒不葬也

○五月二日秋系宗固卒八十二才名貞辰百花園と異は法光寺の騎士あり鳥光榮公の如
門人あり和壽と云ふ以明年ありは谷荒木横町ありて卒せり
正系卒性
ち小葬儀○六月音吉実者伊勢貞之卒七十才号安高
西保大寺古以葬○六月十六日儒師井
上金裁卒
幸三才名院の秘文卒
芝青ねらち小葬儀○八月十六日國學若荷田所凡卒五十七才秘高為
後皇令終ち小葬儀
○九月十五日より十月十日迄千住為服する野島津山古比系為開帳
○九月十八日後卷氏十三代延宗卒六十
才○十月より五年の男也系之角鏡を瑞
らる○十一月相長相芝居橋を改し時馬橋と云程言せあり乙冠竹衣大の衣敷を
此鼓一棹を以て舞ふ
是昔の女系
送風ありといふ○十一月東本願寺本堂再建棟上○十二月六日夜太白星歳
星を祀る○二月十一日月五車星の
名をを祀り○十二月廿六日夜戌下刻八代海川
 岸より出火為小風烈しく大石小路新橋敷奇燈橋弓町御座下辺八宮町
 の辺尾張町より本所所芝居仙臺廣田藩邸の辺北へ系橋辺迄鉄炮例祭
 地海系為卒都る南小田系所辺迄鉄燒燈廿七日申刻味助町辺より火燒る

大小名藩邸町在あけり追夥しき焼亡し○十二月廿九日儒師并子菜辛
号信介
十二月廿八日夜亦坂吹川のあけり出大森布長坂辺に焼亡

天明五年乙巳

二月十五日より日向院之繕倉称名石勅者閑帳○同日より日向院にて豆洲

八丈島為朝明神幸地地荒井閑帳○三月より洲崎舟才久平帳○八月より

江之橋下の宮舟才久平帳江之橋より系指多し○浅草妙音寺之江之橋

寺祖師家帳○三月廿六日儒師清田若錦卒六十七○二月十日福王雲空卒内被使

後名東の二号白濁といふ英道の画を多の空曆の以り終の圖を画り月巻物幅幅未敷なり深川のあけり

○九月廿二日小川恭山卒名信成孫○五月廿二日曆学若大場昌明卒名信成孫

惜ひ外十七才より卒小石川光岳より著書之記あり

○同廿五日淳世修師石川秀範豊信卒名信成孫○六月朔日と九月朔日追日向院之供裁清涼寺釈迦如来閑帳

○六月朔日と九月朔日追日向院之供裁清涼寺釈迦如来閑帳

○六月十五日より湯島社地にて武州野島地籍

号家帳○八月より七月廿四日と本新一月八日幡宮旅不之と上州飯林茂林寺

十一西親世多閑帳寺雀か福茶茶を○七月十日儒師大鹽整諸平名良孫

○九月九才幡隨院中智白院不葬也○夏より秋迄早凶作○三股中剛(兼中)伏出来又あり

國橋向築出り新地川巻若八十乃南の方十二方餘あり本新一月より運井

追川渡の上を以築りし不之寛政元年小至て元の如く川と成る

○九月末帝終焉所崇再建成就佛あり○八月十日加藤枝直死卒本

日向院不葬以子孫前のみあり○九月十日より深川靈雲院にて水戸徳園より越禪師大昭將

来天妃船玉津園羽像閑帳長閑羽不持の令中玄徳不持の五瓦目焼出

○十月十九日儒師久保忠成卒名仲通孫二節右三の卒古人之

同 六年丙午 十月閏

正月元日丙午未午一刻より未一刻迄日蝕ひつそく既而夜の如し

○正月廿二日昼九時陽島天神裏門外牡丹長家より出火西北風烈しく三組

町妻恋社神田町神門外茶屋閣より縁籠町辺内外神田より通町筋本町通

日本橋迄東へ小田原町燈江町小網町堺町葺屋町まで延焼近辺大徳寺町

小徳寺町より喰町濱町津川へ飛火徳井町相川町大島町辺八幡宮へを

居付丁辺焼亡翌廿三日曉迄る聖堂神田町神門外本社射り終り

○月廿五日風烈しく午刻西久保大養生の門外より出火赤羽版倉町と焼失

ち院の光昭寺の光院其外焼亡は未より飛火七田町海岸迄焼る申中刻迄

幅三丁長十五町といふ○同廿四日夜神奈川宿三百軒の餘焼る○同廿七日

午刻本所四丁目より出火釜屋迄焼る○同夜平川所門外出火あり

○二月二日荷田善満うごあふまろの女養生卒卒○二月六日午刻之

小石川蓮華寺さきや指谷町二丁目より出火乾風強く丸山辺より町奉行元町

以茶水春日町新焼秋立所迄終る○同院へ上総屋平田村株念寺遠次

孫院如來園焼○谷中延命院七面町神奈川○二月廿三日相筋稲根山あひらの動

く女は日の以地震甚しく同日百度射震ひくと云○三月より徳園寺親世寺

開焼○三月十廿夜中雪降り梅の花を積る○三月廿二日降瑞穂諸元祖

病歿若狭掾死七才才林在る勝刺繁と雀海といふ○早春より四月の半迄

而あく日烈風ありと諸人火災の怖のそあく安きころあり

○五月の以より雨整く隔日の振ありしが七月十二日より別々大雨降終り

山水何れも洪水と成る十三日十四日より牛込小日向ゆある切橋辺武家方登陸途人々

水勢をなぐ橋の流るる由お村田上水掛樋危く大勢の人を以て溺るお後奥樋の上より天程水

ありしが十七日十八日より少く減りより自由下山崩上水樋つが水水乃一月の餘迄る昌平橋筋

遠橋危く和泉橋の仮橋を流さう十五日より大川子位出お小橋系の水五尺もあつたお子位大橋橋末苗

を掃船宿軒述水あり幸所深川の家を流り平井交地辺水一丈三尺と云大川橋も水橋危く

官府より嚴しく制し以町々を竹柵を築一教を固嚴重あり

○五月賊民に救とて金子を賜り六月末大豆中並を以て

賞しあらし○八月十三日儒学者小沢崇江卒名政教孫多門跡地 浩好子小華以

書家伊能長林卒字万年号匡山 法華寺子小華以

○八月廿二日谷中感徳寺内小於く

東叡山所の鐘を鑄改む月廿八日嘗て時始く撞く○九月七日能法師

雲中庵藤太卒七十大島氏名陽齋空庵居士 号辰深川要津子小華以

○九月十二日井の水毒ありとい

不妖言ひらする○十月九日曉邦刻之吉原南町より出火し廊中跡

冷焼亡花川戸迹焼死伝書大指例休川跡北八幡寺中海馬町字論あり 此の所の名居の是がみまらるゝとのひすねは宅野山人

○神田の神楽礼十一月あ延る再延引く十二月三日小波る登時なる時

天明八年戊申

正月元日大雪路○正月廣東人參賣買正停止ありをゆるしあり

○四月朔日より深川浄心より身延山祖師開帳○月十五日より淺草

店 之池上旅立祖師開帳○四月十日夜戌刻光物飛ぶ昼の如く

○五月八日儒師大に維翰卒東師の文に安衛が子 芝天徳寺小華以

○七月十六日書家植柳季深卒名株 号然居士 浅草湯末子小華以

○十二月寺院に命しぬい浅間山燒奥州

家関敬明卒号東山 称務菴 小日向林名子小華以

○十二月寺院に命しぬい浅間山燒奥州

○十二月寺院に命しぬい浅間山燒奥州

○十二月寺院に命しぬい浅間山燒奥州

○十二月寺院に命しぬい浅間山燒奥州

○十二月寺院に命しぬい浅間山燒奥州

○十二月寺院に命しぬい浅間山燒奥州

此年回記事

天明の頃名家△儒家金峩旭山 芝山北海雀鳴瓶山△詩人西野僧

六如名慈周△書家其寧東江和俊嶺韓天壽牛山△和歌 千松

